

# 満鉄調査部と

天野元之助中国研究回顧

# 中国農村調査

天野弘之・井村哲郎 編

●四六判・上製・416ページ

●定価 本体価格3,800円十税

●2008年8月刊行

ISBN978-4-8350-6181-8

●推薦 田島俊雄・原 宗子

中国農業経済史研究に多大な功績を残された  
天野博士の生涯を辿る好著！

一九七三年に静岡大学で行われた、

天野元之助氏(当時追手門学院大学教授)・福島正夫氏(当時東京大学教授)・

野間清氏(当時愛知大学教授)三名による鼎談記録を発見!!

満鉄時代を生き生きと回想し、これまで知られていなかった農村調査  
での体験や、満鉄調査部の様子が詳細に語られている。

他に「海南島旅日誌」「文革期中国訪問の記録」の三点を収録。

不二出版





天野元之助の鼎談を記録したカセットテープを発見したのは一四年前、祖父の遺品を整理している時であった。海南島調査報告の原稿、文化大革命時の旅行記も同様である。私は当時大学院で東洋史を専攻しており、研究する時代こそ違ったものの祖父の業績に大変興味を持っていた。

さて、今回の三資料を纏めるにあたって、特に印象的だったことを記しておきたいと思う。

鼎談記録のカセットテープは一部聴き取りの難しい所もあったが、長時間に亘り、天野の研究成果・南満洲鉄道の状況・満鉄調査部の状況などが実にわかりやすく残されていた。中国東北部・華中・華南と場所を追って話が展開していくので、内容的にまとめやすかった。また解説を加えることは同時に当時の中国の近現代史をたどる意味も含んでいると思ひ、興味を持って取り組んだ。

海南島の資料については、既に活字化されたものもあるが、『海南島旅日記(抄)』はその原本と比べていい資料である。個人的な日記であるが、日記という枠を越えて、学術論文といっても十分通用する体裁を持った資料であると思った。

文革旅行記については、論文化されたものではなく、完全なプライベートメモといつてよい。しかし、当時の中国国内の革命に対する熱気が伝わってくる内容であった。

上記資料が書籍として日の目を見ることができるとは、天野の身内の者として実在にありがたく、同時にこの本の出版に当たって長らくご尽力いただいた新潟大学の井村先生には心からお礼申し上げます。

二〇〇七年一〇月

天野 弘之

目次

まえがき 天野弘之

I 鼎談 天野元之助中国研究回顧

生い立ち

満鉄入社

経済調査会

北京留学

上海事務所時代

海南島の調査

南京政府の農業政策について

II 海南島旅日記(昭和十七年九月〜十八年三月)

III 文革期中国訪問の記録(昭和四十二年二月〜二月)

注・参考文献

天野元之助年譜、福島正夫氏略歴、野間清氏略歴

解題 井村哲郎

人名索引

内容見本

本鼎談は、昭和四八(一九七三)年七月一日、八日、静岡大学において、天野元之助(当時追手門学院大学教授、福島正夫(当時東京大学教授)、野間清(当時愛知大学教授)によって行われた。なお、文中の「」で括った部分は、編者の補記である。

天野元之助年譜

- 明治三四(一九〇二)年二月三日 大阪市で生まれる。
- 大正九(一九二〇)年九月〜大正二二(一九三三)年三月 松山高専学校文科甲類在学。
- 大正二二(一九三三)年四月〜大正二五(一九三六)年三月 京都帝国大学経済学部在学。
- 大正二五(一九三六)年 南満洲鉄道株式会社入社(四月一四日)。地方部衛生課、大連図書館など。
- 昭和二(一九二七)年 庶務部調査課。『南満洲鉄道株式会社第二次十年史』編纂。
- 昭和四(一九二九)年 審査役室。一〇〜十一月、華中・華南調査旅行。
- 昭和六(一九三二)年 監理部考査課。
- 昭和七(一九三三)年 経済調査会第一部第四班(満州経済班)主任(二月)。
- 昭和一〇(一九三五)年 北京留学(甲種支那留学生)(二月)。
- 昭和一一(一九三六)年 濟南留学(二月)。
- 昭和一二(一九三六)年 上海事務所調査課産業係主任(二月)。昭和一二(一九三七)年中戦争開始後、宣撫班の総括。
- 昭和一二(一九三六)年 満鉄上海事務所調査役(七月)。上海事務所が行った農村調査を指導。
- 昭和一七(一九四二)年 大連転任、調査部調査役(四月)。
- 昭和一七(一九四二)年 海南島調査(九月)。
- 昭和一八(一九四三)年 新京転任(五月)、調査局第二満州調査室主査。
- 昭和一八(一九四三)年 「満鉄調査部事件」の後、総務部(九月)。大連図書館研究室。中国古農書の研究を行う。
- 昭和二二(一九四七)年三月〜昭和三三(一九四八)年七月 中国長春鉄路公司科学研究所経済調査局主任研究員。
- 昭和三三(一九四八)年二月〜昭和三〇(一九五五)年五月三日 京都大学人文科学研究所。
- 昭和二六(一九五二)年 経済学博士(京都大学)(六月)。
- 昭和三〇(一九五五)年六月一日〜昭和三九(一九六四)年三月三日 大阪市立大学文学部教授。
- 昭和三八(一九六三)年 学士院賞受賞(五月)。
- 昭和四二(一九六六)年 学術代表団の一員として中国訪問(二月)。
- 昭和四二(一九六七)年四月一日〜昭和五二(一九七七)年 追手門学院大学文学部教授。
- 昭和四六年 勲三等瑞宝章受賞(五月)。
- 昭和五五年八月九日没。





内の者として実にありがたく、同時にこの本の出版に当たって長らくご尽力いただいた新潟大学の井村先生には心からお礼申し上げたい。

二〇〇七年一〇月

天野 弘之

### 目次

まえがき 天野弘之

I 鼎談 天野元之助中国研究回顧

生い立ち

満鉄入社

経済調査会

北京留学

上海事務所時代

海南島の調査

南京政府の農業政策について

II 海南島旅日誌(昭和十七年九月〜十八年三月)

III 文革期中国訪問の記録(昭和四二年二月〜二月)

注・参考文献

天野元之助年譜、福島正夫氏略歴、野間清氏略歴

解題 井村哲郎

人名索引

### 内容見本

本鼎談は、昭和四八(一九七三)年七月一日、八日、静岡大学において、天野元之助(当時追手門学院大学教授、福島正夫(当時東京大学教授)、野間清(当時愛知大学教授)によって行われた。なお、文中の「」で括った部分は、編者の補記である。

生い立ち

福島 これから、天野元之助先生の学問的生涯についてお話を伺いたいと思います。天野先生は満鉄「南滿洲鉄道株式会社」に長く勤めになって、中国農業経済史の世界的な専門家におなりになりました。これは日本の学者の歴史では珍しいことです。イギリスには東インド会社に勤めていたジェイムズ・ミルとその息子ジョン・スチュワート・ミルがいます。ジョン・スチュワート・ミルは東インド会社に三〇年あまり勤めた、経済学者、哲学者ですが、学者を専門としていたわけではありません。そういう人と天野先生とを比べてみたら、またおもしろいのではないかと感じております。天野先生はまたご自身の著書の序文に学問的な経歴をお書きになっています。今回それらを読み直

9 I 鼎談 天野元之助中国研究回顧

天野元之助氏手書きの海南島旅行経路



### 解題

井村 哲郎

本書は「満鉄調査部と中国農村調査——天野元之助中国研究回顧」と題したが、本書におさめた記録は三つである。

第一は、当時追手門学院大学教授であった天野元之助氏を囲んで、東京大学教授福島正夫氏、愛知大学教授野間清氏によって行われた鼎談の記録である。この鼎談は昭和四八(一九七三)年七月一日と八日に静岡大学で行われた。あらかじめ野間氏によって作成された質問項目に従って、まず天野氏が自身の中国研究を回想し、その後には福島、野間両氏が質問を行うという形で進められている。この鼎談の記録が本書の主要部分をなしている。

第二は「海南島旅日誌」と題したものである。これは、昭和一七(一九四二)年から一八(四三)年にかけて、天野氏が海南島で土地慣行調査を行った際の日記の天野氏自身による抄録である。天野氏の海南島での調査はこれをはじめであり、また天野氏の最後の農村調査となった。この日誌は、当時の海南島の風俗・慣習を記録しており、海南島の民俗誌として興味深いものである。

第三「文革期中国訪問の記録」は、文化大革命さなかの中国視察旅行記である。天野氏は昭和四一

### ●編者紹介

天野弘之(あまのひろゆき)

一九七〇年 静岡県に生まれる

一九九八年 龍谷大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程満期退学

現在 株式会社アーキ・ヴォイス社員(中国語・韓国語スクール編著書)

「天野家所蔵和書・漢籍目録」「流通経済大学天野元之助文庫」所収、流通経済大学出版会、二〇〇三年

「清朝初期東北・華北における農業政策」「日中文化研究14」勉誠出版、一九九九年

井村哲郎(いむらてつお)

一九四三年 富山県に生まれる

一九六六年 京都大学卒業

現在 新潟大学大学院現代社会文化研究科教授

編著書

「米国議会図書館所蔵 戦前期アジア関係日本語逐次刊行物目録」アジア経済研究所、一九九五年

「満鉄調査部 関係者の証言」アジア経済研究所、一九九六年

「拡充前後の満鉄調査組織(Ⅰ)」「アジア経済」第42巻

第八、九号、二〇〇一年八、九月

「日清文インフレ調査と満鉄調査組織」『アジア経済』第44巻

第五・六号、二〇〇三年五・六合併号



# 天野元之助には二つの顔がある

田島俊雄  
天野本研究会世話役・東京大学社会科学研究所教授

天野元之助には二つの顔がある。一九三〇年代から四〇年代にかけての中国農村を参与観察する満鉄調査マンの顔と、戦後の日本で中国農業史を論じる大学教授としての顔である。

本書の鼎談では、福島正夫、野間清との対話の形で、満洲事変後の満鉄調査委員会、吉林省懷徳農具村調査、山東での調査旅行、日本治下の華中（江南）農村調査、海南島調査と続く天野の調査遍歴を、中国の研究者や宮崎正義、大上末廣、大塚令三、伊藤武雄ら満鉄の同僚との交流を含めて縦横に論じる。陳翰笙、薛暮橋、孫治方、孫曉村、王寅生、馮和法、千家駒らの「中国農村派」や、陶孟和、陶希聖、何廉、方顯廷、李達、許德衍、梁漱溟、喬啓明、万国鼎ら、当時の中国を代表する知識

人との交流が率直な語り口で述べられる。朱其華（初期の中共黨員、のち脱党。「中国社会史論戦」に参加）宅に間借りするなど、天野にしかできない芸当だ。ウィットフォーゲルの理論、ロッシング・バックの調査や統計に対する否定的な点も印象に残る。調査マン・天野の真骨頂は、あくまで現場体験だ。

新発見は、海南島も含めた天野の農村調査には、いずれも相手として水野薫（盛岡高等農林出身）、鈴木辰雄（東大農経出身）、平野蕃（同）、内ヶ崎慶二郎（同）ら農学・農業経済学の専門家がいたという事実。編者による注釈は大変な労作で、鼎談での専門的なるが故の不足を補って余りある。

# 現状を見る眼・歴史を見る眼

原 宗子  
流通経済大学教授、同・天野元之助文庫代表

眼前の現代社会と悠久の歴史事象、二つに向ける視線は、人により、また時として使い分けられることもある。が、中国農業史研究の世界的泰斗・天野元之助先生は、「統きに見ておいてよかった。過去の考察に際し予断を容れず、あくまで眼前の実態と史料に残る言葉とを誠実に繋いで立論された。歴史事象を、空想的ロマンや空理空論の中に漂わせなかった。だからこそ没後三十年近い今も、先生の御研究は不朽の光を放つ。歴史学研究的意義が矮小化されつつある今日、かかる見識こそ中国史を学ぶ者に求められる。

本書は、その天野先生の時代を見る眼の確かさを余すところなく伝える。それは、何ゆえ実証史学への道を歩まれたかを自ら語る本書第一部・第二部の記載内容には留まらない。今や歴史的過去となりつつある文革期の訪中録・第三部でも、例えば八達嶺訪問を「長城下の山麓には東（なつめ）が

群生している。大変なものである。ここは修理もでき、まったくきれいに

なり。：内蒙古側の山嶺には：孔だらけで、よく見ると若木がはえていて。昔を思って感慨無量。：等々と記す（247頁）。当時の環境政策の実状が明らかになりつつある現在なら、先生の筆致が示す『左伝』の微言大義さながらの正確な観察と鋭い判断とを読み取れよう。お二人の編者はこれらに充分な注釈を施され、自身気鋭の歴史研究者たる令孫・天野弘之氏の細やかな説明、井村哲郎氏による周到な補注と丁寧な解題とが相俟って、歴史学を志す初学者にも解り易い。

御遺族並びに関係各位のご好意で、先生ゆかりの諸文献を集める「流通経済大学・天野元之助文庫」を開設でき、弘之氏にその多くの書誌情報整理もして戴いた私にとって、文字通り待望の書である。

# 天野元之助著 中国農業経済論 全3巻

本書は、天野元之助博士の戦前における中国農村実態調査の集大成といふべき『支那農業経済論』上巻（昭和一五年刊）・中巻（昭和一七年刊）、及びその「下巻」にあたる『中国農業の諸問題』上・下巻（昭和二七・二八年版）の改訂復刻版である。

●A5判・上製・函入・総2,200頁

●本体価格28,000円＋税 ISBN4-8350-4574-2

# 植民地文化研究会編 《満洲国》文化細目

本書は、「満洲国」で出版された書籍四六〇点、同国居住者によつて書かれ日本で出版された書籍一〇五点についての個別の書誌（刊行年月日、発行者、頁数、定価、所蔵先など）と解題の集大成。

●A5判・上製・850頁

●本体価格3,800円＋税 ISBN4-8350-4157-7

# 鱒澤彰夫編 紅衛兵新聞目録

毛沢東の指導のもと、文化大革命初期に中国全土を席卷した青年層を主体とした大衆運動組織「紅衛兵」の機関紙「紅衛兵新聞」の総目録。一九六六年八月から六八年末まで刊行された一、一八三種を収録。

●A4横判・上製・620頁 ●推薦II矢吹 晋

●A5判・上製・384頁

●本体価格5,800円＋税 ISBN4-8350-4410-X

# 松村高夫著／杉原 達一解説 日本帝国主義下の植民地労働史

本書は、一九六六年から二〇〇六年にわたって発表された、日本帝国主義と植民地労働史に関する六編の論文を集めたものである。今後の東アジア各国との関係を捉え直す上でも貴重な研究書。

●A5判・上製・384頁

●本体価格5,800円＋税 ISBN4-8350-4410-X

# 岡村敬二著 「満洲国」資料集積機関概観

戦前期「満洲国」の図書館・官庁資料室等の活動や蔵書目録の一覧、戦後の接収後の資料収蔵の変遷過程、そして現在中国の図書館に保存されている資料の現況と、その検索ツールズについての集成。

●A5判・上製・2500頁

●本体価格4,800円＋税 ISBN4-8350-4156-9

# 満洲泰阜分村―七〇年の歴史と記憶

満洲泰阜分村―七〇年の歴史と記憶編集委員会編  
長野県泰阜村―発行

本書は開拓団員二〇数名に上る生の声、研究者の学術論考、移民・引揚・帰国支援関連の村役場資料、丹念に作成された年表と名簿、さらに「満洲泰阜分村―後世に伝う血涙の記録」を一部再録した労作。

●編集統括II 蘭 信二

●A5判・上製・1,040頁

●本体価格8,000円＋税 ISBN978-4-8350-5559-6

●表示価格はすべて税別。

# 不出版

T11330023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03-3812-4433  
FAX03-3812-4464  
振替001600294084